

地域を支える命の水

吉野川土地改良区 理事長 **廣岡 英生**

潮止樋門で念願の真水を安定確保

我が吉野川土地改良区は、徳島県東部の吉野川最下流域左岸に位置し、2市2町（徳島市・鳴門市・^{まつしげ}松茂町・北島町）にまたがる受益面積 2,070ha、組合員 3,000 人を超える県内でも有数の土地改良区です。

当土地改良区管内の農作物は、^{かんしょ}東部海岸部では甘藷（鳴門金時）・大根が作付けされ、中央域では水稲が主力をなし、西部地区では蓮根・梨が盛んであり、南部地区では水稲とカリフラワー及びブロッコリーが栽培され、いずれも西日本有数の大産地となっています。

さて、この地域（^{しもいた}下板地域）の農民は、永年にわたり、農業用水の確保に苦しんできました。そこで、徳島県の支援により、昭和 9 年 10 月に吉野川普通水利組合（当改良区の前身）を設立し、農業用水を安定的に確保するための取り組みが始まりました。

まず、昭和 11 年に^{いまざれがわ}今切川に潮止樋門を建設。次いで、戦争の影響もありましたが、昭和 24 年には旧吉野川にも潮止樋門を完成させ、また、鍋川には船通工（^{こうもん}鍋川閘門）を建設し、この地域に農業用水を供給してきました。



甘藷の収穫作業

ところが、旧吉野川及び今切川の両潮止樋門は、その後の南海地震（昭和 21 年）や度重なる台風の影響で損壊・老朽化が顕著となってきました。そこで、この対応を入れた吉野川の「水資源開発計画」が持ち上がり、両潮止樋門を撤去し、新しく河口堰を建設することになりました。事業は、水資源開発公団（現水資源機構）が昭和 46 年に着工し、昭和 51 年に竣工、同年から旧吉野川及び今切川の両河口堰を維持管理することとなりました。



撤去される前の潮止樋門(旧吉野川)

かんがい期には、^{さんたんたらく}三湛二落の堰操作

当土地改良区のかんがい用水（慣行水利権を保持）は、吉野川にある第十堰で堰上げられた水が第十樋門から旧吉野川へ流入し、旧吉野川・今切川の分流を経て、旧吉野川及び今切川の両河口堰に至ります。両河口堰では、塩水の遡上を防止し、^{たんすい}湛水された真水は改良区が管理する管内 47 ヶ所の取水樋門や揚水機場から用水として取水されています。

当土地改良区のかんがい期は、3月1日から14日までを準備期間とし、3月15日から9月末日までとなっています。また、かんがい期間中は三湛二落（さんたんにく）と呼ばれる堰の運用・操作が行われています。これは、河口堰で3日間湛水操作（水をため込む）し、続く2日間で落操作（水を排水する・干満開閉）を行い、この5日間を1サイクルとして農業用水（除塩用水を含む）を供給するもので、大きな特徴となっています。

一方、10月1日から2月末日までの非かんがい期には、昔から塩害に悩まされてきたこの地域の伝統として、月2回の特定日を設けて除塩用水を流して地区内農地の塩分が上がらないようにする工夫もなされています。これらは、年末に毎年開催される管理運営協議会の場で、翌年度の河口堰の運用として決められています。両河口堰は、その湛水した河川水を農業用水として供給しており、受益地は河口堰で湛められた水の恵みにより、地域農業に多大な貢献をしています。

改良区と共に歩んでくれる水機構

水資源機構と当土地改良区との関わりは、水資源開発公団時代から40年近く続いています。その中でも、平成15年に共同で開催した「21 創造運動 田んぼの学校」は、思い出多き広報イベントでした。

当時、当土地改良区では「21 世紀土地改良区創造運動」



21 創造運動 田んぼの学校

に取り組んでおり、改良区が供給する農業用水の説明をする場合、水資源機構が管理する河口堰の存在を抜きに語る事が出来ないため、共同でのイベント開催をお願いしました。

当日は、改良区管内にある応神小学校4、5年生を対象に『農業用水』について、河口堰で湛めた水が農業に使われていること、堰上流で湛水した真水と堰下流の塩水との塩分濃度を測定・比較してもらい、河口堰で湛水することによって、水が農業用水等で使えることを学び、普段はなかなか見ることの出来ない今切川河口堰の施設内の見学もさせていただきました。



水資源機構からの技術支援（排水機場点検）

さらに、水資源機構の地域貢献の一環として、平成19年度には、機構職員が日常業務として実施している機械・電気施設の整備点検等のノウハウにより、土地改良区施設の維持管理状況の現状把握及び助言を、「水資源機構技術支援業務」という形で実施していただきました。このように、日頃から日常の点検整備及び管理の仕方等についても、丁寧に情報交換及び技術提供のご協力をいただいているところです。

終わりに、農業用水を確保するための先達の方々のご苦労のうえ築き上げられた旧吉野川及び今切川の両「潮止樋門」のおかげで、この地域で吉野川土地改良区が携わる管内農業が発展しました。「河口堰」という施設・名前に変わった現在も、安定的な農業用水の供給のみならず、この地域を支える命の水ということで、水資源機構が日々適切に管理していただいていることに大いに感謝申し上げます。